

京都府生協連ニュース

2005年10月1日・No.57(通算123号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

京都府総合防災訓練おこなわれる

～9月4日、福知山市内主会場にて～



お茶や牛乳を配る訓練では、子どもたちもお手伝い。写真はお茶を配って山田知事（京都府災害対策本部長）と握手する実佳ちゃん

■本番さながらの訓練に

9月4日(日)、「前日から総雨量150mm程度の降雨があり、午前6時に大雨・洪水警報は解除されたが、洪水注意報は継続中。午前6時30分、京都府北部で三峠(みとけ)断層を震源とするマグニチュード7.0の大地震が発生」という想定のもと、京都府総合防災訓練がおこなわれました。昨年の台風災害をふまえ、今年は地震と水害を想定した訓練となりました。また京都府災害ボランティアセンターも福知山会場と丸太町会場の2カ所で訓練に参加しました。

訓練は本番さながらで、とくに自衛隊ヘリによる救出救助訓練、大型トレーラー・ユンボ・ダンプ連携の道路啓開訓練など、日ごろ見ることのない光景に目をうばわれました。

■京都府生協連の訓練

京都府生協連は、京都府との「応急対策物資協定」にもとづき、応急支援物資の調達・搬送のための訓練にJAグループとともに参加しました。

参加者は、京都生協はじめ大学生協、府庁生協など31人のほり、JAグループのみなさん(20人)といっしょに、応急支援物資の牛乳・お茶(200ml 各500本)を会場で配りました。

なお、総合訓練に先立ち、8月26日に京都生協福知山・三和・大江行政区委員会と生協連が福知山地域防災学習会を共催し、18人が参加しました。



生協・JAのテント前、山田知事を囲んで



小川 生協連災害対策委員長を先頭に支援物資を配りました



訓練に参加された生協とJAグループのみなさん



ヘリによる救急搬送訓練



福知山地域防災学習会にはたくさんの小学生も参加して、人工呼吸と心臓マッサージの講習を受けました

リスクコミュニケーションの思想と技術



講師 木下富雄 氏

(財) 国際高等研究所
フェロー

7月26日におこなわれた京都府生協役職員研修会では、リスクコミュニケーションの第一人者である木下富雄氏を講師にお招きして、リスク対応におけるコミュニケーションの「思想と技術」について学習しました。講演の要旨を紹介します。(文責：編集部)

◆リスクとはなにか

リスクコミュニケーションの話をするには、その前提となるリスクについて、まず共通の認識をもつ必要がある。ところが残念なことに、リスクには学問的分野によってさまざまな定義の違い、つまり学問的「方言」がある。そのことを知っておかないと、同じリスクということばを使いながら、実際は同床異夢であることが多い。

一般の住民がイメージするリスクは、少なくとも日本においては、「危険なもの、恐ろしいもの、こちらはまっとうな生活をしているのに先方から降りかかってくる迷惑なもの」という受動的なものである。

しかし語源的に言えば、英語の risk のもとになる俗ラテン語 *risicare* (動詞形) が示すように、「絶壁の間を縫って航海する」がもともとの意味である。その語感には、危険だけではなく危険をあえて冒す、つまり冒険とかチャレンジングという、能動的なニュアンスが強いことを知っておく必要がある。

学問の世界における一番伝統的な定義は、「生命の安全や健康、資産や環境に、危険や傷害など望ましくない事象を発生させる確率、ないしは期待損失」である。

それに対して、一番よく使われるのは、災害の発生確率だけではなく、災害が発生した場合の障害の大きさを考慮し、両者の積でリスクを定義することである。これはリスクが、時間的・空間的に広がる複合的な分野において使われることが多い。原子力発電所の事故や環境汚染など、大きなシステムのリスクはその典型である。

また分野によっては、前記の定義における「望ましくない」という価値的な表現を避け、たんに、未来における不確実な事象として定義することもある。経済

学でいう「為替リスク」などは、その典型であろう。

定義のうえで重要なポイントは、リスクは危険や災害 (ハザード Hazard) そのものではなく、その可能性のことである。なお、リスクは、最初の定義からもうかがえるように、なにをエンドポイントにとるか、たとえば、放射線や化学物質のリスクの場合、生命の損失か、発ガンか、細胞の損傷か、などによって大きく値を異にする。

◆リスクコミュニケーションとはなにか～定義と本質的要素

一般的定義は、対象のもつリスクに関する情報を、リスクに関係する人びと (これをステークホルダーという) にたいして可能なかぎり開示し、たがいに「共考」することによって、解決に導く道筋を探す社会的技術のことをいう。その本質的な要素として第1に、対象のもつポジティブな側面 (便益) だけではなく、ネガティブな側面 (リスク) についての情報、それもリスクはリスクとして、関係者の欲する情報を公正に伝えることである。第2に、一方的なプロパガンダではなく、関係者の間で双方向的なコミュニケーションがおこなわれることによって、情報を共有することである。第3に、その目的は、相手を「説得」することではなく、関係者が「共考」して、よりよい解決法を探る土台をつくることである。

◆リスクコミュニケーションに含まれるべき内容

送り手からの情報には、リスク測定やその評価の過程で発見されたリスクの性質や程度、リスクの測定法と単位の意味、それにもとづくリスクマネジメントの手法、すなわちリスクの低減法や回避法などがふくまなければならない。

一方、受け手からは、リスクの認知の程度やリスクの許容水準などが発信され、送り手がおこなうマネジメントにたいする対抗案の提示などがなされることになる。

◆リスクコミュニケーションの基礎にある思想

リスクコミュニケーションは人文・社会科学の技術であるから、その背後には思想や価値観の裏付けがある。それは、ひとことでいえば民主主義の思想であり、法律用語でいえば「公民権」「自己決定権」「知る権利」などである。これらに共通なのは、「神の前に人間は平等」とか、「弱者の権利保護」という思想である。具体的には、男女平等法、人種平等法、製造物責任 (PL)

法、インフォームドコンセントなどの公民権思想と共通の基盤をもつ。

◆リスクコミュニケーションの効果を左右する要因

第1は、送り手側の要因であり、そのなかでも送り手の信頼性が決め手である。しかしこれまでの調査によると、送り手になることが多い行政、政治家、企業、マスコミなどにたいする国民の信頼性は残念ながら高くはない。ではどうすればいいのか。最初は効果がなくても、それが継続されているあいだに、信頼性は次第に高まってくる。社会心理学の分野の研究によれば、信頼は、相手の能力への評価と、公正さによって決まることが判明している。

第2の要因は、受け手側の要因であり、具体的には受け手の知識量、価値観、性格、認知バイアス、感情バイアス、それに性別、年齢、職業、文化差などが関係する。ここで重要なのは、コミュニケーションの効果は送り手よりも受け手のレベルで決まりがちなこと。「人を見て法を説け」という昔からの表現は正しい。

第3の要因は、メッセージ側の要因であり、メッセージ内容の表現法（表情や動作などの非言語面もふくめて）、平易さ、ことに専門用語や確率的表現のむずかしさなどが関係する。社会心理学の研究によれば、感情の伝達における効果の93%は、非言語的な側面に依存するという。

第4の要因は、媒体側の要因であり、使われるメディアがマスメディアかパーソナルメディアか、またインターネットかなどによって、コミュニケーションの効果は異なる。

第5の要因は、リスク対象側にある要因であり、リスク対象のイメージや、引き起こされる災害の性質によって効果は異なる。

◆リスクコミュニケーションを成功させるための重要なポイント

重要なものをあげると、市民を敵視せず仲間として受容すること。市民の考えや関心がどこにあるかを注意深く見守ること。質問をはぐらかしたりしないで必ず答えること。回答が分からないときや不確かなときはそれを正直にのべること。確かになった段階であらためて説明すること。もっている情報はできるだけ多く、かつ早めに提供して情報を共有すること。データの不確かさや弱点についても率直に議論すること。最悪事態の推定とともに危険性の幅を示すこと。ウソは絶対いわないこと。できないことはできないとその理由をふくめて明確にのべること。苦しまぎれに気をもたせるあいまいな回答はさけること。できることしか約束しない。しかし約束したことは必ず実行すること。議論で勝ちすぎないこと、負けすぎないこと、などで

ある。

ひとことでいえば、イエス・ノーを明確にいうことと、ウソは絶対にいわないことであろうか。

◆リスクコミュニケーションのパラダイム～「説得」から「共考」へ

これまでの広報のパラダイムは、受け手に対して、対象のプラス情報を豊富に与えて態度を変えさせる、つまり「説得」というパラダイムであった。社会心理学でいう説得的コミュニケーションである。これに代わる新しいリスクコミュニケーションは、「共考」のパラダイムというべきもので、送り手が対象についてのフェアな情報、つまりプラス情報とネガティブ情報とともに与えることにより、相互の立場の理解や信頼感の醸成をもたらし、それによって合意形成の道筋を探るというものである。

このようにリスクコミュニケーションのパラダイムでは、相手の説得をかならずしも直接の目的としていない。それよりもステークホルダーが相互に信頼しあい、共通の土俵に登って共考することがより重要なのであって、合意形成はあくまで結果なのである。

◆リスク許容度とその個人差、文化差

あらゆる科学技術や製品にリスクがつきものである以上、リスクのマネジメントは、人々がどれほどまでのリスクなら辛抱できるのか、つまり「許容リスク」抜きにしては論じられない。経験法則によると、市民の許容リスクは10のマイナス5乗が境目であることが知られている。この値は、火災死や溺死のリスクである。10のマイナス4乗以上のリスクは人々は受け入れないことが多いが、マイナス6乗以下になると無関心になる。ただこの値は、かなり個人差や文化差がある。

◆リスクコミュニケーションをささえる組織風土～トップマネジメントがカギ

現場の者がいかにすぐれたリスクコミュニケーションをおこなっても、背後にある組織の風土がそれにそぐわなければ、せつかくのコミュニケーションは空回りをする。しかも、コミュニケーターが一生懸命になればなるほど、「守旧派」との乖離（かいり）はすすんでしまう。場合によっては、コミュニケーターが神経症になることさえある。この組織風土の方向性を決めるいちばん大きな力は、トップマネジメントである。トップがリスクコミュニケーションの価値観を共有することが成功への道である。

リスクコミュニケーションは、なんともいうとおり、フェアな情報開示を通じて、ステークホルダー間に共考にむけての道筋をつける技術の一つである。リスクコミュニケーションのキーワードは信頼性なのである。

おもな行事のお知らせ

<京都府生協連・会員生協関連>

KYOのあけぼのフェスティバル2005

京都府生協連ワークショップ企画・男女共同参画—わたしの立場からV
男子厨房に入って何がみえてきたか

～男の料理教室～

コープ二条駅のサークル「男の料理教室」のみなさんといっしょに「食の自立」「男の自立」について考えあいます。自慢の料理の試食もあります。お気軽にご参加ください。

日時：10月15日（土）13：00～15：00

会場：京都テルサ東館2階第3セミナー室

参加費：無料

問い合わせ：京都府生協連TEL075-251-1551

第4回ライフプランセミナー

主催：ライフプランセミナー実行委員会（京都府生協連・京都生協共済会共催）

日時：10月22日（土）10：00～16：00

会場：平安会館 1階 平安の間（上京区烏丸通上長者町上ル御所中立売御門）

テーマ：「毎月あと1万円黒字を増やし、それを賢く殖やす方法」

講師：井戸美枝氏（社会保険労務士・CFP®認定者）

対象：京都の生協で働く職員（正規・パート）とその配偶者

参加費：無料（昼食付き）

ご夫婦での参加歓迎。託児もあります。

問い合わせ：京都生協の方は、総務管財部・大幸（おおさか）TEL075-681-1412、京都生協以外の方は、京都府生協連TEL075-251-1551

浦島エコロー森づくりボランティア募集

ゆたかな漁場を守るために、京都府漁業協同組合連合会が中心となって5ヵ年計画で植樹の取り組みをすすめています。

主催：京都府漁業協同組合連合会

協力：京都府協同組合協議会（JA京都中央会、京都府森連、京都府生協連、京都府漁連）

日時：10月23日（日）午前9時京都駅八条口バスプール集合

会場：京都府伊根町太鼓山（筒川等の源流）

※すぐ山の上には風力発電機がまわり、海が展望できるよいところです。

参加費：一人500円（昼食代ふくむ）

申し込み：京都生協の方は、組織運営部TEL075-681-2190

京都生協以外の方は、京都府生協連TEL075-251-1551

2005・京都・食べるたいせつフォーラム <第12回京都府生協大会>

主催：京都府生協連

日時：11月24日（土）13：00～16：00

会場：京都ホテル（中京区河原町御池）

第1部：パネルディスカッション「京の食文化のいま」

第2部：京ブランド食品の試食

参加費：無料

定員：200名まで

申し込み：TEL・FAX・Eメールによる受付。

TEL075-251-1551 FAX075-251-1555

EメールKyotofu.Seikyoren@ma2.seikyone.jp

※京野菜料理冊子プレゼント

<行政・他団体関連>

第36回京都消費者大会

くらしの安心を求めて～税・社会保障を考える

ほんとうにゆたかな社会とは「くらしの安心があつてこそ」。ともにつどい、語りあい、消費者の知恵と力をあわせましょう。

主催：NPO法人コンシューマーズ京都（京都消団連）

日時：10月1日（土）13：30～16：30

会場：ハートピア京都3階大会議室

セッション1：講演「国民の生存権と税」。講師は日大法学部教授 黒川功氏

セッション2：リレートーク&ディスカッション「これ以上負担できない！ 社会保障費・消費税」

参加費：無料

問い合わせ：NPO法人コンシューマーズ京都

TEL075-251-1001 FAX075-251-1003

勤労者健康スポーツフェスティバル

主催：京都労働者福祉協議会

日時：10月16日（日）10：00～

会場：府立丹波自然運動公園

内容：初登場バンジートランポリンはじめ、エアロビクスと体力診断、大玉ころがし、ピンゴウオーケラリーなど家族そろって楽しめるスポーツの祭典。大抽選会もあります。

参加費・入場料：無料

問い合わせ：京都労働者福祉協議会

TEL075-821-5551 FAX075-801-7600